遊口副議長

お祈りいたします。

様のご健康とご繁栄とを心から 甲府市の隆盛と十九万市民の皆

甲府市議会の 選挙が 行なわれ

々に議決して、それぞれの関係

昨年四月には市長をはじめ、

新しい構成ができ、盛り上がる 省庁に提出し善処を要望してま

ととをお誓いいたします。 市発展のため、全力投球で進む

せて、財源確保など中央や県との

|のものである。近く市営住宅の古||れが大きく育って実りあるものに||見ありがとうございました。

本 市 の人 (昭和47年1月1日現在)

П 総 数 188,863人 男 101人 762人 女 96, 494世帯 数 58,

府市議会だよ

(編集・発行) 甲府市議会だより編集委員会 電話307054甲府市議会事務局 昭和47年2月1日 第 12 号

70

数

12月定例会日程

提案理由説明 -般質問 開会 18日 一般質問 特別職報酬改定議案 提案

常任委員会 決算特別委員長報告 常任委員長報告 常任委員長報告 刑務所移転促進特別委員会 設置 閉会 2211

17 公 Z, ZJ.

ですから、市政をテーマに密 一されたものでなくても結構 たが、そので意見は各派で統一 派の代表にお集まり願いまし を語るということで各党各会 この匹談会は、新春の市政》 老人医療費を柱に

と思います。 (編集委員長あいさつ)

直自由に語っていただきたい

A

お世辞ぬきで及第点と見ている。 だが、市長の九か月間の評価は、

IJ.

合合

公公

ているかまず何いたいと思いまの取り組みなど、意欲的な姿勢がどの重要事項も緒につかせ、さら |派は市政をどのように評価し感じ||荽、市民の製望の強い清掃問題へ||た国母工業団地、中央倒売市場な |年の市政をふり返ってみて、各会||無料化を柱に、生活関連道路の舗||鷹野元市長以来の懸案集項であっ 口市政が誕生したわけですが、一一行なった七十歳からの老人医療費 た予算を忠実に執行するとともに

| 度中途で河口市長が誕生したわけ | 題について、秋川市長から残され |後を市民の多数の信任を得て、年 | ことで解決に苦しんでいる清掃問 |なり、大東京でもびみ戦争という | ては顕著であったと思っている。 た上町清掃工場の完成を進め、市 制をいち早く整えたことであり、 民の声も聞く中で環境部を設置し これらはヒットと言える。今後は て、ごみ処理センターとしての休

みは、市民から歓迎されている。

山本 清(清風 石川達朗 (清 早川武男 (編集委員長) 出席者(敬称略) · Co 会 会 会

清口一雄(公明 这山貴雄(社会) (社会 山口茂申(中政クラブ) 党 党

武川和好 中沢彦一(事務局長) **弁** 库 党

▼司会

新

年

に

あ 長

たって

議長

溝 早

口 JII

武

男

早川議長

済事情のなかで、昭和四十七年

はげしく移りかわる内外の情

の新春を迎えました。私どもは 勢や、日まぐるしく変化する経

被害者の援護などの意見書を次 国交回復、傷病恩給の改善、年 関する特別委員会の設置、日中 をはじめ甲府刑務所移転促進に て努力を続け、無公害都市宣言 会はあくまで独自の立場にたっ 進してまいりました。そして議 金スライド制の早期実現、原爆 安全と福祉の増進を意欲的に推 活優先市政に呼応して、市民の す。甲府市議会は河口市長の牛 献身を 続けて きたので ありま P政への情熱と、新鮮な感覚で きった気持ちで今年もまた甲府 のきれいな青い室のように澄み ありません。元日に何いた、 すならばこんなうれしいことは 皆さんの関心が一層深くなりま 等を通じ、強力に地方自治の進 しとなり、議会へ寄せる市民の より」が議会と市民とのかけは ます。私どもは、この一臓会だ 展につとめてまいる考えであり 全国、関東、県下市議会議長会 いりました。 今年はさらに心を新たにして de

計画も前向きに継承され、周辺世 秋川市長が手がけた市道完全舗装 市政に協力的になり喜んでいる。 いる点は買える。それゆえ市民も 域の一部を残して市街地は相当整 した公約を実行に移し、努力して B市長が市民と選挙時に約束

であるということであり、 に招意してもらいたい。

きるものと期待している。 全国にもまれにみる完全処理がで一あり、私どもも大いに期待し、こ 整備をしているので、新年度には | 六十五歳無料化が実現できそうで み処理は、専門的に処理する機構 の公約とおり、任期中に老人医療 次に、市民が一番困っていたで | 策の芽が出され、福祉面では市長 | 設など福祉行政の拡大充実を要認 | 上からも、刑務所や動物隙の移転 今後特について伺いたい。

全職員の意識改革を すぐやる体制にもぜひ必要

建設的な批判、ご意見も伺いた。実際に市政を動かす職員全体に、 市政が貫かれたと評価しておりま は、各氏ともおおむね市民優先の すが、今後の市政連営のために、

の計画性が失われないよう留意ししきでも職員がついて行かなければ なんにもならない。職員全体が、 もを交通事故から守るため、生活 らいたいと思う。 В

苦言を呈したいが、市内のお付き|するというところまで意識改革を|関連道路を本格的に進めてもらい|率的な運用が必要だ。八方美人的 合いは代理の許すものは助役に任 ○ 市長の行動について一とと 自ら市政の問題点を見つけて研究

現状の交通事情下で、子と|を実現して欲しい。

F 秋川市長のもとで編成され

る。

G 四十六年度は住民本意の政

給食センターを

なのは教育行政である。

·河口市長誕生後の評価として | 交渉に重点的に時間をさいて欲し | 類似都市に比して、教育予算の構 | て農政を行なってもらいたい。 の充実に大幅な投資を望みたい。 鉄筋化など施設の改善、教育内容にめ共稼ぎが一般化しているが、 第一だと思っている。本市の場合 の利益を守るため話し合いによっ | ちろん結構だが、これ以上に大切 | 適用など私有財産を制限する施策 成比が下回っているので、校舎の が、甲府市の発展には人づくりが | 加できる素地がない。市長は農民 F 総花的行政ではだめだ。秋 備を計画的にしてもらいたい。 A 福祉に重点を置くことはも | 市計画法の終弓き実施、 農振法の 私は、目立たなく連効性はない | 見失って迷っているが、市政に参 E 物価上昇の折、生活防衛の

的な問題の処理に追われて、行政|姿勢にかかっている。市長が前向|ぜひ河口市長のもとで実現しても|市政を理解してもらい、市民参加 てはならないし、また地域の断片 | 制といっても、その成否は職員の | 市長に叫び続けた給食センターを | 程度の市民大集会を開き、そこで G 私もそう思う。すぐやる体 | 入れてもらいたい。私は、三代の | 集約する形として千人から二千人 | はならないような仕事が、超過負 うに、福祉行政、教育行政に力を 山故市長が道路で実績をあげたよ 安心して

側げるように

保育所の整

たい。又、本市の住宅不足は相当 | に芽を出すということでなく、こ を発展させ、昨年実施したものを一かしい。本来、国や県がしなくて の形で市政を共に考える対話集会し、市財政をますます苦しいもの E 限られた予算であるから効 ■ 新年度には、市政を語る会 | 施策を実施することはなかなか難 自らなくてはならないと思う。 財源の支出を余儀なくされてお |担や施策の肩替わりによって一般 にしている。今こそ市長と住民は 一体となって、国の政治の改革を ーではこの辺で…。

河口市長 市民優先の市政を貫く

一昨年は議員改選と同時に、河 その中身は、国・県に先んじて

秋山市長が病に倒れ、その ものとしては、今や社会問題とも 十分にうかがえる。

るごみ処理をして欲しい。 川宮も含めた中で、市民が満足す **州準をつくるなど積極的な取り組** 策についても、厳しい条例、規制 また公害から本市を守る公害対

れをバックアップしていきたい。

ているが、それが人気取りであっ ▲ 市民との懇談を意欲的にし とはいえない面がある。 る姿勢は横範的なものであるが、 その方針が必ずしも徹底している E 確かに市長の市民に奉仕す

力された点は率直に認める。 とにかく短い期間に献身的に努 | 出ずに終わった面もあるが、河口 | が短距離選手では困る。担当する | なるかが問題であるので、この点 老人医療費の年齢引き下げ

七年度に期待したい。 市政のもとで予算編成される四十

間はこの姿勢を保って欲しい。

今後に注目していきたい。

G 今の政治のしくみのもとで

くしたととなどは評価している。 の舗装、ドルショック対策をうま 河口市長は、意欲的に市政を語 |確かに河口市政の評価は高いもの |るには、真の革新、民主的な市政 |派を超えた県との協調関係は、 民主市政の確立を

い生活を強いられている市民を守 の地方自治体の首長の立場は難か

しい。政治の貧困のなかで、苦し|や中央倒売市場で県の多大の協力

国、県に頼る面が多い。都市計画

A 財源の乏しい本市としては

を得たわけであり、今後も政党政

市

を確立する必要がある。

民のために必要である。

一般的には革新といわれる河口

市民の要望、苦情、不平を単に吸 る態談会を進めているが、従来のがある。 E 就任以来の施策の中身から

C 飛行以来几か月の見るべき | させる等、ある程度河口カラーを ながら行なう姿勢が出ていること | 環境部設置、老人対策、生活関連 | いる。新年度は正しい政治姿勢と |出したことは、短期間の業績とし|は好ましい。さらにその方向を確|道路、すぐやる機構など見るべき|積極的にいのちとくらしを守る施 に老人医療資無料化を大幅に前進一市民参加の市政の基本を植えつけ一が変更されるか監視していたが、 かなものにして欲しい。 政の主権者は市民なんだ、という | うると言っている。そこで、とこ | に政府の悪政から市民のくらしと 通じて市政を理解してもらい、市」画は継承するが、一部変更もあり いあげるに止まらず、この対話を | 政のもとでつくられた長期総合計 昨年は秋川市長のレールが敷か一をつきあわせ、大衆に目を向けてしていきたい。 |もの大である。市長が市民とひざ| 簑の前進を期待し、きびしく監視 市長は就任初の議会で、秋山市

いのちを守った点は一応評価して

要求を消化するには財政的に苦し む基本姿勢、具体的要求も出され

い面があると思われますが、財政 ましたが、これら行政需要、市民

制度の問題点、財政の工夫等につ

いてご意見を伺いたい。

おぼつかない点はあるが、前向き 市政が誕生し、私どもの考えには

- 各氏からそれぞれ新年度に臨 新規事業を 借金しても

れた後だったので、河口カラーが一いる姿勢は結構だ。しかし、これ

ごみ処理でヒット

教育面を最重視

| 卸売市場も起工式を行ない、建設 | ても新しい時代の幕明けと言われ 備されてきた。

難問であった中央

の大変動により、本年は国におい -国際情勢、経済問題など内外 | さらに新年度では、老人医療と同しいものが払い下げられるという

|とにかく工場誘致が開始されてい | が叫ばれていますが、本市におい 目に計画的に買収することが肝要 | ので、各会派の新年度に臨む政策 | 祉施策を犠牲にしては九か月間の が進んでいるし、国母工業団地もとりわけ国民生活優先の政策転換 とこで思うのは、公共用地は早

めての予算がつくられるわけです

えている。何を重点にしても、福

を切みたい。 ても新年度は河口市政のもとで初

福祉行政を最重点にすべきだと考が、労働金庫への融資の増額など一苦しくても起債枠の拡大等制度の

動物園の移転も

規事業は思い切ってすべき時期で

活用をはかって、先行投資的な新

はないかと思う。

市長、住民は一体に

いる勤労者の労働対策費が少ない 宅を建設していくべきである。

と思うが、今の財政運営としては

■ 市の税収の大部分を納めて 切った事業をするかのどちらかた

求を押えるか、借金をしても思い

E 健全財政を堅持して市民型

するが注目しているが、私どもは

E 新年度で市長が何を目玉に

|時に乳幼児の無料化も実施すべき|が、その財源で低家賃の新しい住

と思う。

的な資金運用をはかる必要がある 先行投資を思い切ってして、効率 開発公社の借入枠を広げて学校、

新年度予算に期待かける

福祉施設、動物関など公共用地の

石用することと、現在十五億円の

C 国、県の補助金を最大限に

であると思う。

手当の創設、老人ホーム、精薄施 成果がなくなる。具体的には出産

をせひ実現させたいものだ。 C 都市計画や現在地の環境の

が進められ、農民は農業の方向を|度の実態を明らかにして、市民の G 政府の政策によって、新都 る。現在の財政制度下では、各種

参削して、自分たちの市政をつく 求めていく必要がある。市民もま 協力のもとに体制の改善、変革を 治体をコントロールするような制 国庫補助金、起債許可を通じて自 るんだという自覚を欲しい たなんでも市長、市役所の責任に ある。今の自治体財政では新しい 帰すのではなく、積極的に市政に の単独事業を増すことが必要であ D 市民の市政をするには、 G 私もその意見に大体賛成で

一般会計性質別決算部

出合

i ケ年間の一般会計 歳出決算額(性質別)の推移 (昭和41年~45年度)

答符本さんの土地問題では、 十二月定例会

一歳から無料に 特別職の報酬引き上げ

招いたことは誠に遺憾である。 私の普意が踏みにじられ、誤解を

れ、前定例会から継続の昭和四十一げ、人衙に伴う給与改定議案など 現、原爆被害者の接護に関する意 ぎの問題とはいえ、現在市長であ うがどうか。 に市長から提出された老人医療費」た。また、磯公内に刑務所移転促 五年度決算四件を認定し、今議会|三十六件を原案のとおり決めまし。具書|一件を政府に提出することを| る私の名誉が回復されない眼り、 | 答:納税奨励金との関係で、動 二日までの 十日間の 会期で 開か] 長、謹眞など特別職の報酬引き上,眞提出の年金スライド制の早期空」は毛頭ない。 したがって私人のと しれていることも問題であると思 | 月屋倒煮は十四日から二十| 無料化年齢七十歳に引き下げ、市上維線別を以会を設置し、さらに底| は全く関知しておらず、刑事責任 であり、役員が市議会議員で占め| のあと、委員会審議を行なったか 決めて閉会しました。

 $\frac{4}{\sqrt{}}$ \Leftrightarrow

八氏によって、それぞれの会派を | 政) 風間良ઘ(社会) 堀内 光錐 | 反省している。今後は行動を慎重 | いる。会則に基づいて適正運営が | て、とれを建設委員会にかえてい 代表して行なわれました。 政春 (清風) 長田金八郎 (同) の じ(共産)長田徳郎(清心)小政一ついては早く解決することを望ん一政指導を行なう。 は十六日から三日間、中西久(新しての道義的責任は感じており、 (公明) 今村宏(中政) 石丸あき にする。また、笹本さんの土地に 行なわれるよう、改善について行 く。 十二月定例会における一般質問 主な内容は次のとおりです。

間 甲府駅民衆駅化については |最近になって国鉄の経営方針の変 ◇甲府駅民衆駅化 積極的な取り組みを

◇市長告訴問題

道義的責任感じる

で告訴されたが、全く無関係であ | 組む考えをもっているか。 たのかどうか。 間 市長は笹本氏から土地問題 予算措置などとって積極的に取り

おりますが、審査の結果明らかに | ているが、半面、債務負担がふえ だと思うが、どう感じているか。 | うととで見送られてきた。 の不信を招いた道義的責任は重大 が、国鉄側にその計画がないとい いずれにせよ、市長として市民 |以来関係者の間で努力されてきた 答この問題は、昭和三十二年

を設置

播出 市川

重正雄雄 Ħ

るため、議会の

中に委員十三名 促進を具体化す 甲府刑務所移転

になっていた昭和四十五年度決算 たが、決算額は一般会計、特別会 五%ふえ一六・七%になった。 七十七億四千十一 | の占める割り合いが高くなってい | 二、河川美化は積極的に行ない、 |る。とれは市の施策が市民生活に|快適な生活環境の維持をはかる。 なり、また人件費も昨年より一・ものは次のとおりです。 一、建設選業費のうち、単独選業 ヘルパーを増員する。 一、寝たきり老人に対するホー

刑務所

進めることにな **転運動を強力に** 機関に対する移 開発計画、関係 基礎調査、地域 を全会一致で決 る特別委員会」

七十六億九十五万 | 必要な身近な施策に重点がおかれ | 三、下水道の終末処理場の施設に たためである。 財政の健全性が確保されてき、度な機械設備をする。 ついては、公害防止の上からも高

目標を「青少年の夢を育てる施策

昭和四十五年度決算は、市政の

「快適な生活を維持する施策」に一で、執行率は九四・三%になって二二、

九千五百六円 万六千二百六円 報告どおり満場一致認定されまし 四議案は、十二月定例会で委員長|計合せて、

歳入 歳出

九月定例会から閉会中継続審査 | 重点をおき、市政が執行されまし

決算四議案を認定 九四:三%

る割り合いは二一・六%と高率と

また、委員会の襲望意見の主な

された特徴等は次のとおりです。 | ており、将来の財政運営について

一、高度経済成長により税の占め は慎重な配慮が必要である。

執

行 45 年度 率

> ◇特別徴収協議会 指導、改善を望む

間市の補助団体である特別数

とっただけで、告訴内容について「ほとんどが会長手当など役員報酬 私は、友人に頼まれ仲介の労を一た。公費補助になる事務運営費の一 |わさがあり、運営が不明朗であっ | 改定議案が提出されましたが、議 |収協議会は、以前からとかくのう | の答申 (諮問より減額) どおりの

にい。
融告罪の告訴はとり下げる考えは | 労者の福利厚生施策の | 環として | 十二月からの実施になりました。 しかし、市民を騒がした市長ととかく今までも関係者の間で問題一話し合い、駅前広場の都市計画、 |が出されていたことも承知をして | 身延線との 関係など 条件を 整え 特別徴収協議会があるわけだが、

長

役

〇ゼロ歳児の医療費無料化(新日

○道路舗装(幸町二十八番・米川

〇道路舗装(相生二丁目・山本宗

建設経済部委員会】

〇市道編入及び舗装整備(上石田 | 〇道路舗装整備(高成町自治会長

本婦人の公甲府支部代表・浅川栄 |満ほか) 料化推進協議会会長・上野幸作) | 沢喜久雄ほか) 者の会会長・丹沢正五ほか)

【民生部委員会】

○老人福祉の実施(老人医療費無|○違路舗装(里声町自治会長・七| ○原爆被害者の援護(原水爆被害一下帯那町自治会長・市島義太郎ほ

長・笹本吾朗ほか)

〇不均一課税の適用(国際観光版

【総務部委員会】

館連盟関東甲信越支部川梨連絡会

し、ぜひ実現したい。 施計画と合わせて関係予算を計上 予算措置については、国鉄の生

間 農家をとりまく信勢は厳し 新年度に移転着手

最近国鉄当局も意欲的だと聞いて | 化もあり、駅ビルということで意

議員10万5千円 特別職の新報酬

で、答申を尊重して提案のとおり の日に特に本会議を開会し、質疑 議員事酬など特別職の報酬者

新報酬は別表のとおりで、

◇山宮農場移転

| 規模に合った農協合併を円満に進 | 政事情もあるので来年度検討し努

改定前 誻 問額 答 申 額 定额 280,000 190,000 ~230,000 260.000 200,000 150,000 ~170,000 190,000 ~220,000 130,000 ~150,000 170,000 ~190,000 170.000 ~190.000 200,000 120,000 110,000 105,000 90,000 130,000 120,000 110,000 105,000 110,000

部執行委員長・古屋進ほか)

晋提出(全日本自治体労組甲府支 〇年金スライド制早期実現の意見 |日本睛義ほか)

〇水路変更と改修(あけばの自治

〇メッキ業界集団化のための用地

幹旋ばか(金属工業団地協同組合

会長・小松忠夫ほか)

採択されたもの

請

願

者医療協会・小池 一ほか)

【建設経済部委員会】

事長・小野喜八)

○道路舗装(家具工業協同組合理

[総務部委員会]

○道路錦裝(長松号町自治会長・|○通学路の整備(湯村三丁目・中

田東ほか)

○市道編人(中村町自治会長・雨)○市道舗委(城東四丁目・近藤長

〇市道改修舗装並びに側溝整備へ

の川宮殷場は、都市農業にふさわ 市 助 収入役 被 長 副議長

E

の構想はどうか。 指導に協力願っている。今後適正 しくないが、移転の具体策と連営一〇乳幼児の医療費無料(川梨勤労)南部自治会長・川田作一ほか) ・小松元保ほか) 答農協には農家の経済、営農

から取り組んでもらいたい。

といういくいくいといういくいといういくいといくいといういくいくいというい

| ◇工業団地未買収地

れ、一月二十日に市民クラブ(代

解決の基本姿勢は一表・今村宏)が結成されました。

異動のあった会派は次のとおり

答乳幼児の医療費無料化は財

|の可能性があると思うが、市長は | 市、岡工会議所で調査委員会をつ | にも弱小農協の合併を進める必要 は、行力化の農儀兵類を配備し、 いる。地元の熱意次第では、実現 |欲的になってきている。現在、県 | い。農家の育成指導を高めるため、転に着手したい。運営方針として |くって運動しているが、国鉄との|があると思うがどうか。また現在 農民の研修の場になるものにした める指導をする。 農業センターは、四十七年度移

の方向に展開していきたい。

る。場合によっては責任者として

土地収用法の適用もあり得る。

山中繁芳、内藤幸男、橘田重雄

(以上前中政クラブ

(以上前清心会)

に換地を用意して話し合い中であ一今村宏、内藤秀治、山口茂申、

答 工業団地は来年六月を目途 マ市民クラブ 一五名

員も図って、保健活動を母子福祉

|力する。新年度からは保健婦の増 |対処する市長の姿勢を聞きたい。 |です。

間国母工業団地の未買収地に

◇医療無料化

乳幼児にも実施を

一意見書を= 政府に提出

め、移転問題の を設置すること 移転促進に関す る「甲府刑務所 をもって構成す

◇年金スライド制

る現状にあります。 質的価値は著しく低下してい 与の上昇によって、年金の実 ており、こと数年の物価、給 は現職者に比し四、五年遅れ の早期実現 したがって、退職時の年金 公務員の退職年金のベース 昭和三十二年に施行された

退職時の給料の額を改定する う、在職者の給料改定に応じ れることを要望するものであ て年金額計算の基礎となった の実質的価値が維持されるよ イドの措置が、確実に具現さ 一健康管理手帳を交付する。

委員長 渡辺 儀市 副委員長 長期止左衛門 柏原 保幸

秋山慎次郎

小 順

淳 良

三井 光 綱 五郎 光 舞 香 ります。 T T T

□◇ 原爆被害者の援護法

爆者年金並びに障害年金を支 すよう次の内容をもった「接 れてはいるものの、被爆者の するものであります。一、被 護法を制定する」ことを要望 して医療と生活に専念できま において、原爆被害者が安心 遠いものがありますので、田 願いとするところからはほど 関する法律」は、漸次改善さ 原子爆弾被爆者の医療等に

無料で健康診断の受けられる 他県や郡部から入ってくる車が多り

50-5-40-5-30-5-10-5-

沙 投资的経費

>防犯灯設置

医療背無料化についても、新年度 点は大であるが、これと合わせ、 これからの社会をになう乳幼児の 削進をみて、福祉行政に貢献した 間。老人医療貨無料化は相当の

四十七年度には予算措置をしてい で財政上の理由でできなかったが は長い間の懸案事項であり、今ま 答 防犯灯設置の補助について | らいたい。

◇ノー・カー運動 市民運動の提唱を

学童の災害共済制度を設ける考え 子どもを事故から守るとともに、 上げる考えを持っているか。また が、本市の交通渋滞も著しいとき ノー・カーを市民運動として盛り カー運動が全国的に広がっている 間八王子市で始まったノー・

いては、本市の場合県都であり、 考えている。ノー・カー運動につ して、ある程度の成果があったと 答中心街で歩行者天国を実施 一すべきものは計画的に解消する。

間 防犯灯、街路灯の設置費用 いという状況なので、関係団体と 新年度で予算措置

しているところが多いが、本市で 学校管理下の事故防止対策に努力 秋川慎次郎 も補助すべきだと思うがどうか。 | し、制度については検討させても、▽清風会 三名 っている。他都市では市費負担を学童の災害共済制度は、第一に は、自治会運営の大きな負担とな | 協議して検討したい。

▽清心会 四名

(以上前清風会) 衛門、内藤源一、山本光雄 小河原正平、伊藤常八、長瀬正立 浅川朝治郎、森沢茂、長田楠郎

清水清富、石川達朗、

◇義務教育PTA負担 軽減の具体策を

> 市川正姓 ▽無所属

編

集 (前清心会)

後 記 川本清、小沢政春、長田金八郎

について、具体的な方針を聞きた 間義務教育の父兄負担の軽減

| は二、三年中に解消する。研究会| が二千三百五十万円あるが、これ はっきり学校に援助しているもの 度をみると、PTA予算の中で、 調査中である。たとえば四十六年」は昨年の河口市政の評価と新しい PTA負担軽減調査研究会を設置 の結果に基づき当然、公費で支弁 して、PTAの負担状況について 答 教育委員会に関係者による

会派の異動

年の市政に向けての各会派による 後初めて迎えた年ですので、 てお届けいたします 匹談会を企画しました。
 ◇今回は議員改選、河口市長誕生 ◇議会だより十二号を新年号とし

ために、ご批判やご協力を本年も いまして、市政のよりよい発展の あることを参考にされ、ご理解随 議会のなかにいろいろの意見が

議会会派の一部再編成が行なわ一読をよろしくお願いします。 りのために耐張りますので、ご ◇本年もよりよい議会だよりつく